

創業者から受け継がれるCSRの精神

当社の前身である京阪電気鉄道(株)は、日本最初の銀行である第一国立銀行を設立し、「日本資本主義の父」と呼ばれた渋沢栄一翁を創立委員長として明治39(1906)年11月19日に産声をあげました。千年の王城「京都」と商都「大阪」を、京街道沿いに町や村をつないで鉄道を敷設するというプロジェクトは、事業性自体が有望であったのに加え、地域社会の発展に寄与するという高邁な思想に基づくものでした。

渋沢翁の経営哲学は、ただひたすら私利私益のみに走るのではなく、公利公益も考え、他人の幸せのためにも力を尽くすのが本分だと唱えた「道德経済合一説」に集約されます。そしてこの精神こそ、現代において脚光を浴びているCSRそのものとも言えます。当社グループでは、創業者の精神をグループ全体で受け継ぎ、「京阪グループCSR委員会」を設置しています。同委員会を中心に「スピード経営」「コンプライアンス経営」「ブランド経営」「環境経営」の実践に努めることで、社会全体やすべてのステークホルダーに対してバランス良く価値を認められる品格のある経営を目指しています。



渋沢栄一翁(渋沢史料館所蔵)

